視察報告

第1常任委員会

視察期間

平成25年11月12日・13日

視察先と視察事項

○静岡県湖西市
地域の防災対策について

○静岡県富士宮市
認知症対策について

湖西市

静岡県の最も西に位置する湖西市は人口6万1531人を擁し、南に太平洋、東に浜名湖を望み、新幹線・鉄道・高速道路・国道などが集中しており、古くから交通・輸送の要所として栄えてきた。

昭和51年8月「東海地域で大地震が明日起こっても不思議ではない」という東海地震説の発表以来、住民一体となって地震防災対策に取り組んでいる。その間、地震対策事業による安全な地域づくりが着々と進められるとともに、各地域には自主防災会が結成され、防災訓練の実施、防災資機材や組織台帳などの整備が行われた。

湖西市では、行政で自主防災会の活動マニュアルを作成し、市で地域防災指導員を設置し、地域の自主防災会の支援をしている。

自主防災会活動マニュアルや自主防災規約又は自主防災会初動マニュアル等を例示し、積極的な支援をしている。

市民の防災意識の高揚、自主防災組織の活動支援等防災対策の推進を図るため、地域防災指導員を設置した。

指導員は自主防災会からの要請により、①防災知識の普及に関すること②自主防災組織の支援に関すること③防災訓練の企画、立案、実施に関する職務を行っている。

◆地域防災指導員防災出前講座

自主防災会や各種自主防災会や各種団体の要請に応じ、地域で開催する訓練や訓練企画、集会などに湖西市地域防災指導員を講師等として派遣して、防災に関する情報提供等を行っている。

地域防災指導員が防災について、専門知識を生かし分かりやすく説明をする。

現在、市内の自主防災会の結成率は、100%となっているが、地域による自主防災活動への取り組みの格差、防災訓練のマンネリ化、役員の高齢化等、さまざまな問題を抱えているのが実情である。

土岐市も自治会及び町内会等での取り組みが喫緊の課題であると思われる。

富士宮市

人口約13万6000人、面積388・99㌔平方メートルの富士山麓の4分の1を占め、世界文化遺産のすそ野に広がる全国的に有名な富士宮焼きそばや生産日本一のニジマスの養殖など多数の観光資源を有するまちです。

富士宮市は、国のモデル事業として、平成19・20年度に認知症地域支援体制構築等推進事業に取り組み、「民」「産」「学」「官」の全ての分野に約9000人の認知症サポーターが誕生し、地域でさまざまな支援の輪が生まれた。

認知症を解決すべき問題として捉えるのではなく、認知症の人が暮らしやすい地域は、皆にとって暮らしやすいという考えに立ち、認知症の人が真に望む支援をキャッチし、それを生み出していくことに取り組んでいるところに特色があります。

第一ステップで市民向け認知症講座を開き、自助力を高める。

第二ステップで認知症サポーター養成講座を開き、互助・共助力を高める。

第三ステップで早期発見・早期治療体制の構築のため、本人・家族への相談窓口の紹介を推進する。

第四ステップで相談窓口の紹介及び相談体制の確保をする。

第五ステップで家族介護の支援、家族介護教室の開催で介護者支援ネットワークを作り上げる。

認知症高齢者の外出支援策、徘徊高齢者とその家族に対するケアを、認知症サポーターの方々と共有する方向で活動されている。

施設介護でなく、日常生活の中で健常者と生活を共にすることは理想でありますが、土岐市にとってその施策はまだまだ意識が低いと思われます。

市民の認知症への理解、障がい者の日常生活に対する理解度を高める講演会などの開催が望まれます。

視察報告

第2常任委員会

視察期間

平成25年11月14日・15日

視察先と視察事項

○長野県岡谷市
　産業観光の取り組みについて
○新潟県長岡市
　中心市街地のまちづくりについて

岡谷市

岡谷市は古くから製糸業が盛んで日本の産業近代化を支え、その後精密機械工業への産業転換を果たされ、さらに最先端技術の工業のまちへと発展されております。

観光としては、平成19年度経済産業省に認定された近代化産業遺産群があり、その主なものは、レンガ造りの旧片倉組製糸事務所、明治期の株式会社金上繭倉庫、蚕糸業の発展を祈念するため建立した蚕霊供養塔、市立岡谷蚕糸博物館など15箇所の製糸に関する施設がありますが、観光客の集客には結びついてはいないようです。そこで近代産業発展の歴史化、精密機械系を中心に多様な体験学習教材キットの開発、現役技術者たちが体験プログラムに参加し説明、諏訪広域6市町村との連携推進を図られたことが評価され、産業観光岡谷として平成23年度に第5回産業観光まちづくり大賞特別賞を受賞されております。

その後、市内企業15社と連携され工場見学・ものづくり体験を案内する、産業観光インおかやものづくりマップを作成されて観光客誘致を図られておられました。

その後、マップに掲載されている、主にベルトコンベアーを製造されているマルヤス機械株式会社の工場へ見学に行きました。

岡谷市は日本の産業近代化を支えた製糸業が衰退し消滅したなかで精密機械の企業と連携され産業観光とされておられましたが、やはり歴史観がなくその効果は一過性の感じがしました。土岐市は、安土桃山時代から継承されている陶磁器があります。先祖から伝わるこの陶磁器を衰退させることなく官民一体となって産業観光の目玉として今後に伝えていくことが私たちの務めだと強く感じました。

長岡市

長岡のまちは、歴史も古く1618年に現在の長岡駅を中心とする市街地に長岡城を築城した頃から明治維新まで城下町として繁栄しました。

『米百俵の精神』は長岡の有名な話で現在もその精神はまちづくりの随所に生かされておりました。

長岡市のまちづくりへの取り組みは大型デパートが郊外へ移転し、まちなかが空洞化し中心市街地の賑わいが低下した状況のなかで、都市機能を新たな視点で検討するため、市民で構成された『長岡市中心市街地構造改革会議』を設置され、平成16年に提言を受け、平成18年に『長岡市中心市街地地区都市再生整備計画』を策定され、まちづくり交付金など国の補助制度を有効に活用されながら5カ年計画でスタートされました。

長岡市は、コンパクトなまちづくりに向けて取り組まれ、市役所本庁舎の中心市街地への移転、市民協働シティホールの整備、まちなか居住の促進、交通結束点の機能強化、商業・業務機能の充実等があげられておりました。

本庁舎の中心市街地への移転は長岡駅から2㎞ほど離れた場所にあった本庁舎を駅の中心市街地に移転させ、また役所の業務を機能別に分け中心市街地の大手通りに政策的に分散配置し、ついで効果による回遊性を高め、シティホールプラザ（アオーレ長岡）では、アリーナ・ナカドマ・市役所の3施設が融合した市民協働・市民活動の拠点施設を整備し賑わい空間を創出してみえました。

市役所はまるでデパートのように気軽に入っていける感じであり、総合窓口では複数の手続きでも市民は動かなくて担当職員が入れ替わりで対応をされてみえました。また平日の夜間、土・日・祝日も窓口は開設されておりました。駅から市役所までペデストリアンデッキ（屋根付き高架歩道）で結ばれており雨でも傘をささずに歩行が出来る市民にやさしいまちづくりをされておられ、視察の前には、長岡市は人口28万で、行政の規模の違いから土岐市のまちづくりについて参考になるのかとの思いがありましたが、市民にやさしいまちづくりをされており大変勉強になりました。

土岐市駅を含む中心市街地の活性化は遅々として進んでおらず、新庁舎建設の中で中心市街地の活性化につなげていけたらと強く感じました。